

満願寺跡（舞鶴市）

満願寺跡は、舞鶴市万願寺に位置する寺院跡です。

発掘調査の結果、鎌倉時代の礎石建物3棟、石組み溝1条、室町時代の礎石建物1棟などが見つかりました。鎌倉時代の建物は、ほぼ同じ位置に継続して建てられていますが、室町時代になると規模が小さくなっていることがわかりました。整地土からは中国製の白磁壺や黒釉壺などの希少な遺物が見つっています。



鎌倉時代の礎石建物



お寺に伝わる縁起によると、鎌倉時代の建保年間（1213～1219年）に僧弁円によって創建され、室町時代には、野火により焼失したことが伝えられています。また、江戸時代の寛文年間（1661～1673年）に今回の調査地の南西に位置する平坦地に再建されたようです。その後、現在の位置に移されました。今回の発掘調査によって創建から現代に至る満願寺の変遷を知ることができました。

遺物が語る京都の歴史

精巧な鏡形石製模造品（暫定登録文化財）



直径 5.4cm、ひもを通す鈕を含む高さが 1.4cm。文様区画の圏線も忠実に削り出されています。滑石を円く削り2か所に穴をあけた鏡形の模造品とは、比べものにならないほど精巧で、宗教的な儀礼で使われました。

京都では木津川市吐師七ツ塚1号墳や京都市鏡山遺跡に類例があります。

精華町森垣外遺跡では、数多くの滑石製模造品や滑石原石、砥石などが出土しています。この集落内で鏡形石製模造品や勾玉・剣形石製模造品が、量産されていたようです。

発掘調査

よもやまばなし

光波測距儀（こうはそっきょぎ）

調査地の測量基準杭の設置や柱穴・溝などの輪郭を実測する際、大いに活躍します。

本体から測点に立てられた反射プリズムに光を当て、ミリ単位の距離を測定します。



【発行日】令和2年3月

【編集・発行】

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番の3
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>



2020

もっと知りたい

京都の遺跡 第6号

舶来旋風



集落の陶質土器

蓆のようなたたき痕が特徴



墳墓の陶質土器

脚部の透かし穴が特長

新しい技術の到来-今来才伎！登場！-

紀元3世紀から8世紀ごろに顕著になった、地球規模の寒冷化は、農業生産量の減少を招きます。少しでも温かい南の地を求めて、人々は移動し、世界的に戦乱が起こります。東アジアでも中国の動乱に端を発し、朝鮮半島では高句麗・百濟・新羅、伽耶連合が成立します。一方、倭国では、有力者によって造られた前方後円墳に象徴される政治体制が整備されます。

『日本書紀』雄略天皇7(469)年の条に、技術をもった朝鮮半島からの渡来人である「今来才伎」の記述があります。考古学の成果から、彼らによって須恵器生産、新たな鉄器生産、馬の飼育、大壁住居などの技術がわが国に伝えられたことがわかっています。これらの技術は、当時の社会や文化に大きな影響を及ぼしました。



集落で使われた陶質土器の甕
(左：精華町森垣外遺跡、右：木津川市上粕北遺跡)



墳墓で使われた陶質土器や初期須恵器
(京丹後市奈具岡北1号墳：府指定有形文化財)

集落のうつわ・墳墓のうつわ

朝鮮半島の影響を受けたうつわは、集落では縄文文をもつ甕などの陶質土器や格子目をもつ平底の甕や鉢など土師器が数多く出土する一方、墳墓では甕はほとんどみられず副葬品として器台や壺、高杯などが出土する傾向があります。



宇治市宇治市街遺跡の土器群

須恵器生産のはじまり

宇治市街遺跡では、流路から地元で作られた土師器とともに陶質土器や韓式系土師器、初期須恵器が木製品とともに出土しました。木片の年輪年代測定から「西暦 389 年」の年代が得られました。須恵器生産の始まりを考える上で貴重な資料です。

●継体大王の宮（『日本書紀』による）
樟葉宮(507年)・筒城宮(512年)・弟国宮(524年)
●古墳・古墳群
古市古墳群・百舌鳥古墳群・今城塚古墳
●生産遺跡
須恵器：陶邑窯跡群
鉄器：大槻・脇田遺跡
玉：曾我遺跡
●馬の飼育
部屋北・奈良井遺跡
●製塩
西庄遺跡
●集落遺跡
布留遺跡：物部氏拠点・南郷遺跡群：葛城氏拠点
森垣外遺跡：南山城地域生産拠点

地名表

大和川流域から淀川流域へ

大和盆地から河内瀧に流れ込む大和川流域には、雄略大王の泊瀬朝倉宮をはじめ、葛城氏の拠点である南郷遺跡群や物部氏の拠点である布留遺跡、佐紀古墳群や大和・柳本古墳群などが所在します。一方、継体大王がその権力基盤を淀川流域に移した結果、樟葉宮・筒城宮・弟国宮、そして、高槻市今城塚古墳が造営されることになります。淀川流域に権力基盤を移したひとつの理由として、瀬戸内沿岸、ひいては朝鮮半島との交易を円滑に進めるねらいがあったようです。



精華町森垣外遺跡の大壁住居

「大壁住居」登場！

首長の住居として、方形の溝を掘り、溝の底に柱を等間隔に建て、土壁で仕上げる大壁住居が出現します。大壁住居は、中国西安市の半坡遺跡や韓国公州市の艇止山遺跡などで確認されており、大陸に起源があるとされています。精華町森垣外遺跡では大小3棟の大壁住居を確認しました。



大壁住居の復元イメージ



溝の底に掘られた柱穴

固有文化と渡来文化の融合

森垣外遺跡では、①陶質土器や鉄器生産を示す②鞆羽口や③鉄滓、④馬の歯や⑤紀淡海峡付近や大阪湾から搬入された製塩土器、⑥装身具の原石である緑色凝灰岩や管玉、祭祀に使われる⑦滑石原石や⑧石製模造品、⑨紀ノ川流域から持ち込まれた軽石などが出土しました。

滑石や製塩土器などの倭国固有の文物に加え、陶質土器や馬の飼育などの新しい文物・文化が、広い地域に広がっていたことを示しています。



交易や新技術を示す出土品
(精華町森垣外遺跡)

近代	江戸時代
近世	安土桃山時代
	戦国時代
	室町時代
中世	南北朝時代
	鎌倉時代
古代	平安時代
	奈良時代
	飛鳥時代
	後期
古墳時代	中期
	前期
	後期
弥生時代	中期
	前期
	早期
	草創期
縄文時代	旧石器時代